

アルミ輸出は行プレス急増

LMEアルミは一、五〇〇ドルまで下落も

橋本金庫
アルミ 橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

四月前半は、イランが増産を表明したことによる原油の急落、二月のユーロ圏生産者物価指数(PPI)は前月比〇・七%低下、前年

比四・二%低下、予想は前月比〇・五%低下、前年比四%低下だったこと、IMF(国際通貨基金)は二〇一六年の世界経済の成長率見通しを再度下方修正。一月時点の予想成長率三・四%から三・二%に引き下げ。などのマイナス材料もあったが、米在庫の減少を受けてWTI原油が四〇ドルを超えたこと、三月の中国貿易黒字は二九八・六億\$。予想は三〇八・五億\$。輸出は前年比一一・五%増、予想は二・五%増だった。輸入は前年比七・六%減少。三月の中国自動車販売は前年比九・九%増の二〇六万台などを好感しLMEアルミ相場はUP。四月十五日時点で一、五五〇ドル(現物後場買い)と月初価格から四七ドルUPの前半締めとなった。

後半は、産油国合が五月にもロシアで開催される可能性が伝わったことで昨年十一月来の水準まで上昇つれて全面高。などのプラス材料もあったが、三月の中国鉱工業生産が六・八%増と予測の五・九%増を上回ったことや、三月の小売売上高が一〇・五%増と予測の一〇・五%増を上回ったが、これにより中国の景気対策が持続しないのではないかと懸念、八日発表された四月の中国貿易統計で輸出が一・八%減の一、七二七億ドルと二カ月ぶりに前年割れだったこと、輸入も一〇・九%減の一、二七二億ドルと二カ月連続前年割れだったこと、などのマイナス材料を受けてLMEアルミ相場はDOWN。五月十二日現在でLME(現物後場)一、五五三ドルと後半スタート価格から四ドルDOWNしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一三・五二→一〇九・三六(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・二%増の八八万九、五〇一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比七・二%増の二二万二、七二二台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・四%増の七万五、七四四戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地

金が前年比一六・二%減の一三〇t、二次合金が八八・三%増の二、一二四t、スクラップが五・六%減の八、七三四t、アルミ缶が九四・一%増の五、八〇六t。

輸入

輸入は新地金が前年比二五・九%減の九万四、四〇一t、二次合金が一・一%増の九万一、三九四t、スクラップが四五・六%減の四四四t、合金スクラップは四二・八%減の三、一五八t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・三%減の一七万五、〇六二t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・五%増の六万六、八九七tであった。

■概況

【自動車生産】

三月の四輪車生産台数は八八万九、五〇一台で、前年同月の八七万八、五七七台に比べて一万〇、九二四台・一・二%の増加となり、四カ月ぶりに前年同月を上回った。

三月の国内需要は六三万五、九〇一台で、前年同月比八・六%の減少であった。うち、乗用車五三万二、四六八台で前年同月比九・三%の減少、トラック一〇万〇、七五四台で同五・〇%の減少、バス二、六七九台で同五・一%の増加。輸出は前年同月比一・八%の増加。(実績)

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽除く)は二万二、七三三台で前年比七・二%増と、三カ月ぶりプラス。うち、乗用車八・四%増、貨物〇・四%減、バス一三・二%増。

【住宅着工数】

・平成二十八年三月の住宅着工戸数は七万五、七四四戸で、前年同月比で八・四%増となった。また、季節調整年率換算値では九・三万戸(前月比二・〇%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。また、季節調整値については前月比で持家、分譲住宅が増、貸家が減となった。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では三カ月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績】

前年比二・五%増の六万六、八九七と一八カ月ぶりプラス。出荷は一・二%増の六万九、四八九と二六カ月ぶりプラス。うち、出荷先別では、鋳物二%減、ダイカスト三・六%増、板六・五%減、押出五・三%増、鉄鋼一・九%減、合金地金メーカー一・五%増。

【アルミ圧延・押出品生産数】

二・三%減の一七万五、〇六三。板類は生産、出荷ともマイナスに転ず(出荷は先月の一・九%増↓二・七%減へマイナスに転ず)。

【輸出】アルミ新地金が前年比一六・一%減の一三〇t、二次合金が八八・三%増の二、一二四t、スクラップが五・六%減の八、七三四t、アルミ缶が九四・一%増の五、八〇六t。

【輸入】アルミ新地金が前年比二五・九%減の九万四、四〇一t、二次合金が一・一%増の九万一、三九四t、スクラップが四五・六%減の四四四t、合金スクラップが四二・八%減の三、一五八t。

【見通し】

・自動車は生産が一・二%増。三月の国内販売台数が前年比七・二%増。生産が四カ月連続ぶりプラス。販売が三カ月ぶりプラス。生産、販売共にプラス、販売に至っては大幅増！新年度入り後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、足下では三カ月連続での増加となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数は、主力の押出の二カ月連続のプラスの一方で、板類はマイナス、輸出は減少。

・アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、自動車生産の増加を受けて増加、さらに、合金メーカー向けへの出荷も増加。住宅着工の増加を受けて、押出し向け出荷が五・三%増。今後に期待。

・輸出は合金地金と缶プレスが大幅増加。特にアルミ缶は大幅増の九四%増！

・輸入は内需の低迷や円高から、新地金とスクラップ、合金スクラップが減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW前のリスク売りから塩漬け玉はほとんどないのではないかと？

最近の生産の増加を受けて発生自体は増えてはいるが、ここ最近の輸出増を考えれば更に需給の逼迫状態は続くであろう。

【価格・為替予想】

今月は、原油と中国の景気対策に左右される。

原油に関しては一月の増産凍結水準は原油の需要が多い夏には実質一〇〇万バレルの減産規模に値すること、国際エネルギー機関(IEA)が十二日公表した五月の月報で、需給の改善を背景に年後半には世界の原油在庫が「劇的に削減される」との見通しを示したところ、山火事のあったカナダで生産が完全に回復するには時間がかかると思われるほか、リビアやナイジェリアでの供給不安が出ている事から四五〇ドルで推移するのではないかと？

中国の景気対策に関しては、中国国家発展改革委員会が四月に総額二二三億ドルの固定投資資産プロジェクトを承認したと発表した。今後も相次いで発表される可能性も高いのではないかと？それらを踏まえた五月のアルミ価格は、原油の需給が現状程度で引き締め四四〇五〇ドルで推移し、中国の景気対策の効果が出てきた場合、四月高値の一段高一、七〇〇ドルを予測。いずれの場合も一、六〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合三月もう一段安値の一、五〇〇ドル。

為替は、新規材料難の中、米経済悪化を防ぐための米利上げ観測の後退や、G二〇の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないかと。それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利上げ観測が後退した場合一〇五円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、米利上げ観測が前進した場合、一一〇円を予測。

メーカースクラップ購入価格は〇〇五円高と予測している。

地下鉄建設基準引き下げへ

数兆円の新規投資需要―中国

中国のユースサイト・財經網が十六日、中国紙・経済参考報の報道として伝えたところによると、中国で各地方当局が地下鉄の建設申請が行える人口基準が現行の都心部三〇〇万人以上から同一五〇万人以上に引き下げられる。関係筋が明らかにした。

地下鉄建設申請の従来基準は都心部人口三〇〇万人以上、地方財政一般予算収入一〇〇億元以上、域内総生産(GDP)一、〇〇〇億元以上だった。

二〇〇九年から、大都市と一部の中級都市の道路建設が限界に達し、地下鉄建設の必要性が高まっていた。地下鉄建設は中央政府が進める中級都市の都市化政策にもマッチする。地下鉄一キロ当たりの建設価格は七億元。一都市の地下鉄の全長を三〇〇一〇〇キロとして計算すると、人口基準の引き下げは数兆円規模の投資をもたらすという。